

CAGLIERO 11

カリエロ11 サレジオ会 宣教ニュース

N.108 - 2017年12月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



私 たちの愛する姉妹、キリスト者の助け聖マリアの娘たち(サレジオン・シスターズ)は、つい先ごろ、宣教の聖年の幕を閉じました：第1回宣教派遣の140周年です。140年前、派遣されたのは、ウルグアイにアメリカ大陸で最初の創設を行うため、シスター・アンジェラ・ヴァライスに率いられたグループでした。

サレジオ会とサレジオン・シスターズは、宣教史の数え切れないほどの美しいページの数々を共有してきました。数多くのサレジオ会海外宣教師にとり、サレジオン・シスターズは、支え、励ましてくれる本当の母、姉妹でした。時には大変厳しい逆境の中で！例えば、福者マリア・トロンカッティから受けた世話と心遣いを伝えるエクアドルの宣教師たちの証言を読むことができます。

聖年の祝いの中で、マドレ・イヴォンヌは書簡no.972に、宣教派遣に応える開かれた姿勢についてFMA会員に問いかけながら次のように書いています。「愛する姉妹の皆さん、今ではいけないのでしょうか？ 私たちはもしかすると信頼が足りないのでしょうか。目の前の急を要することにとらわれ、自らを見失っているのでしょうか。モルネーゼであればほどよく培われていた世界的な展望は今、弱まってしまったのでしょうか？」

同じ問いかけ・翻訳され、文脈に当てはめたもの・そして同じ訴えかけは、今日、そのまま私たちサレジオ会員に投げかけることができます！ そう、計算を少しやめて - それは最新の情報・知識に基づく適切な考察を行わないということではありません - そしておそらく、惜しみない大胆さをもう少し増やすこと。それが、私たちにはまだ足りないようです。互いに助け合いましょ！

感謝のうちに。そして勇気をもって！

J. Basares

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

「教会はいかなる意味でも、誰にとっても、異質の存在ではありません」

教皇フランシスコは私たちに、宣教に焦点をあてるさらなる行事をくださいました：2019年10月の、宣教特別月間が宣言されました。宣教の回勅『マクシムム・イルドMaximum Illud』の百周年を記念するものです。2017年10月22日付の教皇の書簡から、いくつかの考察をここに紹介します。

「この宣教月間を開催するのは、すべての人への宣教missio ad gentesの意識向上を育むため、そして司牧活動を宣教的なものとする働きに、新たな熱意をもって取り組むためです。この月間を通して、すべての信徒は福音を告げ知らせることを心がけ、それぞれの共同体の宣教と福音化の熱意における成長を助けることができます。イエスのための情熱、イエスの民のための情熱である教会の使命への愛が、ますます強められますように！」

教皇ベネディクト十五世は世界における宣教活動により福音的なアプローチが必要であることに気づきました。宣教活動がいかなる植民主義的な色彩も帯びることなく清められ、あまりに悲惨な結果をもたらすことが明らかとなった国粋主義的、拡張主義的な目的から遠く距離を置くためです。『神の教会は普遍的です。教会は誰にとっても、異質の存在ではありません』と教皇は書き、いかなる形の特定の利害も退けるよう、断固とした言葉で呼びかけました。主イエスを告げ知らせること、主イエスの愛は、生き方の聖性と良いわざによって広められるものであり、主イエスを告げ知らせることと主イエスの愛が宣教活動の唯一の目的であるからです。ベネディクト十五世はこのように、宣教活動への責任の意識を、特に聖職者の間で再び活気づけようと、当時の考えや言葉を用い、missio ad gentesすべての人への宣教を、特別に強調しました。

宣教活動は、教会にとって今日も変わることなく**最大の挑戦**であり、宣教は最も優先される務めでありつづけなければなりません。これらの言葉を私たちが真剣に受けとめたなら何が起ころうでしょうか。宣教のために人々に会いに行くことは、**教会のあらゆる活動の枠組み**だということに私たちは気づくでしょう。

それは計画としての意味を持ち、重要な結果をもたらします。……全世界で、『絶えず宣教する状態』でいましょう。……使徒的書簡Maximum Illudは、教会の普遍的使命を通して神の救いのみ旨を、預言の精神と福音的な大胆さをもって、国境を超越し、あかしするよう呼びかけました。この書簡の来たる百周年が、内に閉じこもる教会、楽な安全地帯に退却して自己充足した状態、司牧的悲観主義、過去への不毛な郷愁などのあらゆる形の陰に潜む、繰り返し生じる誘惑と闘う促しとなりますように。そのような状態に陥る代わりに、福音の喜びあふれる新しさに私たちが開かれていますように。戦争の悲劇に引き裂かれ、違いを強調し対立をおおる悪の傾向に悩まされるこの不穏な時代に、イエスにおいてゆるしが罪に勝利し、命が死を滅ぼし、愛が恐れに打ち勝つというよい知らせが、新たな情熱をもって世に告げ知らされ、すべての人のうちに信頼と希望を注ぎますように。」



皆様一人ひとりの上に、
幸いと喜びあふれるクリスマスをお祈り申し上げます。



宣教師の道は神からの贈りもの



私は中央アフリカ管区、コンゴ出身のサレジオ会員です。サレジオの学校の生徒だったとき、私の国で働いた最初のサレジオ会宣教師たちについて読みました。この宣教師たちのあかしに私は深い感銘を受けました。彼らは私の同胞の福音化と社会生活に大きく貢献したのです。このことは私の視野を開いてくれました。心の

中で、宣教師の召命を考えはじめました。心の奥底に、サレジオ会員として生きることへの招きを感じ、そして修練期のとき、すべての人へ ad gentes、生涯をかけて ad vitam 宣教師になる希望を表明しました。哲学を学ぶ三年間、霊的指導者に丁寧に同伴してもらいました。総長に手紙を書き、宣教に派遣される準備ができていると伝えました。その年の宣教のテーマ、「主よ、私をお遣わしてください」は、私の日々の祈りとなりました。第146回宣教派遣(2015年)に私を呼び、スリランカの宣教師としてくださったことを、主に感謝します。

コンゴ民主共和国はとても広い国で、サレジオ会員はどこにでもいるわけではありません。サレジオ会員はコンゴのさらに多くの地域で必要とされています。このような国内の宣教師の需要があるとき、なぜ海外の宣教師になるのかという疑問が浮かびます。サレジオ会は宣教する会です。会は、本国あるいは外国で宣教師となる可能性を私たちに提供します。私たちは大きなサレジオ世界に属しているからです。私は主が遣わされるところでならどこでも、キリスト者、サレジオ会員としての自分の人生を人々と分かち合うように呼ばれていると感じたのです。

スリランカの宣教師として自分の最初の任務は、哲学院で実地課程を過ごすことです。村人全員が信徒の村へ、若者と出会うために出向いていくとき、私は大きな喜びを感じます。私たちの日曜日の奉仕職です。信徒の親が子どもたちに付き添って私たちのオラトリオへ来るのを見るのは、何と良いことでしょうか。私たちは子どもや若者とサレジオのスタイルで接し、英語を少し教えます。この宣教の使徒職に貢献できるのは私にとって喜びであり、温かく迎えられているのを感じます。スリランカ人は、心からの自然にあふれる微笑みで知られています。物質的には貧しいにもかかわらず、本当に喜びいっぱいのオラトリオです。



私は、世界のこの地域の文化とはずいぶん異なる文化の出身です。毎日の食事は米とスパイスの効いたソース、さまざまな地方言語、教会(寺院、家)に入るとき靴を脱ぐこと……この新しい文化を学び理解するために、少しずつ乗り越えなければならない、小さな挑戦の数々です。ローマの宣教師養成コースでは、“カルチャーショック”を経験するとき忍耐するようにと教わりました。個人の祈りは自分にとっての挑戦を乗り越える助けになります。

宣教師の道を希望する若いサレジオ会員には、宣教の召命は神からの賜物だということ、いつも忘れないようにしなければいけないと伝えたいです。神は、ご自身のミッションを世界中で続けることを私たちに望んでおられます。宣教師の道に呼ばれていると感じるとき、私たちは即座に肯定的な応答をします。なぜならそれは、私たちの上に行われる神ご自身の働きだからです。

コンゴ出身、スリランカの宣教師 **ファウステイン・バハティ, sdb**

サレジオの宣教の聖性のあかし



サレジオ会列聖申請人 **ピエールイジ・カメローニ** 神父

尊者**アッティリオ・ジョルダーニ**(1913-1972)は信徒で、夫、一家の父親でした。ミラノの聖アウグスチヌスのサレジオ・オラトリオで長年、信仰の情熱をもって働きました。その後、類まれな使徒的精神のうちにブラジルへ移住しました。1942年、戦争のさなか、後に妻となった恋人ノエミあての手紙に、ユーモアをこめて次のように書いています。「お嬢さん、僕たちは家の中の石造り部分をたくさん取り払わなければなりません。その結果、喜びで満たす空間がたくさんできました。お嬢さん、君がほがらかでいてほしいと願っています。自分に関して言えば、神に感謝、いつもの持病にもかかわらず、寄る年波とそれに伴うさまざまな思いにもかかわらず、けっこほがらかにしています。……ほかのいかなる目的のためでもなく、いつも神の栄光のために働くこと、それが僕の揺るぎない意向です。そのために祈ってください。お嬢さん、打ち明けますが、キリストの満ち満ちた平和と子どもたち(神がその大いなる恵みを僕たちに下さるなら)のけがれない笑い声に、どのような暗雲も影を落とすことのない家庭を僕は夢見ています。」

高齡、病気のサレジオ会員のために

主に呼ばれた召命の喜びをひきつづき輝かせ、サレジオの使命のために主の豊かな恵みを取りなす者でありますように。

信仰、希望、愛はキリスト者の生活の本質、「キリストの満ちあふれる豊かさ」(エフェソ4・13)へと私たちを成長させます。この旅を長年先に歩んでいる人は、ことに豊かな宝庫から宝ものを取り出すことができます。その宝は、与えるほど新たにされます。このことは、さまざまな世代の会員のより深い一致の交わりを生み出すことができるでしょう。それは、言葉、好み、ファッションなど、あらゆる文化の変遷を乗り越えようとするものです。一方では知恵と経験、もう一方では新しい世代、この両者の対話と出会いが真に実り豊かであるよう、私たちは祈ります。



サレジオ会の宣教の意向